

高円宮賜杯 第41回
全日本学童
軟式野球大会
マクナルド・トーナメント

◆千葉県予選

全国大会出場を決める千葉県予選(同県野球協会主催、同県少年野球連盟主管、東京中日スポーツ・東京新聞後援)は23日、袖ヶ浦市営今井野球場などで、県下の支部代表16チームが参加して開幕した。新型コロナウイルスの影響により開会式は省略され、同野球場と百目木公園野球場、同公園ソフトボール場で1回戦3試合が行われた。29日に2回戦、30日には準決勝と決勝が百目木公園野球場で行われ、代表が決定する。(鈴木秀樹)



ヒヤヒヤ一転…逆転勝利
千葉市原マリーンズ

- ▽1回戦
- 東金東クラブ4 - 0 向山ファイターズ(習志野)
 - 弥勒少年野球クラブ9 - 0 リトルジャガーズ(北総)
 - 千葉市原マリーンズ4 - 3 夏見台アタックス(市原)
 - 今井ジュニアベース7 - 0 伊勢原ジャガーズ(千葉)
 - 豊上ジュニアズ11 - 1 富球田ファイターズ(柏)
 - 八街マリーンズ7 - 5 旭ドリームス(東総)
 - 稲荷木イーグルス8 - 0 鴨川リトルベアーズ(市川)
 - 常盤平ボイズ7 - 0 南高津クラブ(八千代)

◎逆転勝利を収め、試合後のあいさつに駆け寄る千葉市原マリーンズナイン。5回表、決勝打を放つ大坂(いずれも鈴木秀樹撮影)



5年大坂が逆転打
千葉市原マリーンズ(市原)が大会常連の強豪、夏見台アタックス(船橋)を逆転で下して勝ち上がった。2回裏に無死満塁のピンチから、バツテリーエラーで先制を許すと、3回には夏見台・猪野遙斗の適時打でさらに2失点。序盤は劣勢に立たされたものの、いずれのピンチも最少失点にとどめたことが、後の反撃につながった。0-3で迎えた4回表、連続四死球で無死満塁とすると、暴投と敵失で2点。時間制限により最終回となった5回は、1死二、三塁からのけん制死で最後のチャンスもついていたかと思いきや、矢野智也が四球を選ぶと、続く大坂心人が右中間を破る逆転三塁打。5、6番の5年生コンビが土壇場で大きな仕事をし、うれしい初戦突破となった。「市の大会も、最近は先行される展開の試合が続いていて、選手たちはどこかで逆転できるつもりでいたようです。こちらはヒヤヒヤですが…」

北田が投打で活躍

弥勒少年野球

弥勒少年野球クラブ(北総)はエースで4番の北田莉玖が圧倒的な活躍を見せ、リトルジャガーズ(葛南)に快勝した。



3打で打者9人から8倒、3つの三振を見せた北田莉玖。この試合で投手として初の完全試合を達成した。

と笑顔の千葉市原・谷津田順一監督。「結果的には序盤のピンチを少ない失点でしのいだことが、逆転勝ちにつながりましたね」と堅守のナインをたたえた。「いつも、みんなですべてで諦めず、声を出し続けた方が勝つ」と言ってるんです。勝てると思ってるんです。勝つ」と深山千里主将。決勝の大坂は「内角高めの球をうまく打てました。気持ち良かった」と喜んでいました。

打を放つなど3打数3安打。北田からマウンドを継いだ内田直希、豊田翼もジャガーズ打線をきっちり抑え、1安打完封のゴールド勝ちで初戦を突破した。北田は「きょうはコントロールよく投げられました」と笑顔。稲川淳也監督は「継投はいつものとおり。強いチームとの対戦が続きますが、うちの野球で一つずつ、全力で戦っていきたいですね」と話していた。